

# 地震時に取るべき行動

地震時があわてずに、まず自分自身の安全を確保しましょう。

## 屋内では

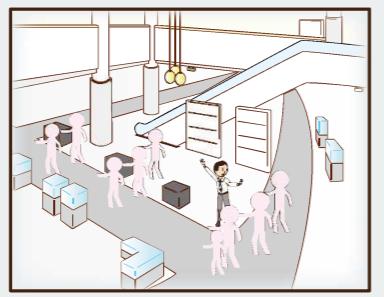
### ●家の中

- ①丈夫な机やテーブルなどの下にもぐり、頭部を座布団などで保護
- ②火の始末をし、ブレーカーをおとす
- ③戸を開けて出入口を確保
- ④棚や棚の中のものが落ちてきたりするので、離れて揺れが収まるのを待つ



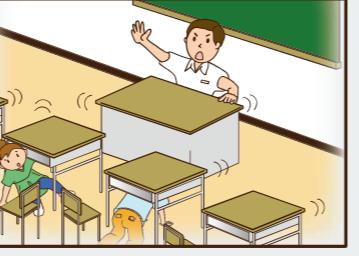
### ●職場

- ①窓ガラスが割れることがあるので、窓際から離れる
- ②OA機器などの落下に注意



### ●学校

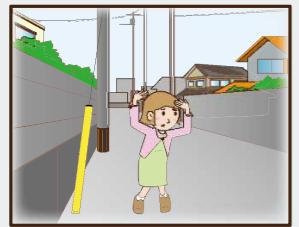
- ①廊下、運動場、体育館などでは、中央部に集まってしゃがむ
- ②実験室などでは薬品や火気に注意し、避難する



## 屋外では

### ●路上

- ①ブロック塀などは強い揺れで倒れる可能性があるため、塀から離れる
- ②電柱や自動販売機から離れる
- ③ベランダからの落下物(室外機やプランター)に注意



### ●車の中

- ①急ブレーキは禁物。徐々にスピードを落とし、道路の左側に停車
- ②エンジンを切り、揺れが収まるまでは車外に出ずカーラジオから情報を入手する
- ③避難する場合は、車の鍵を付けたままにし、ドアをロックしないで避難する

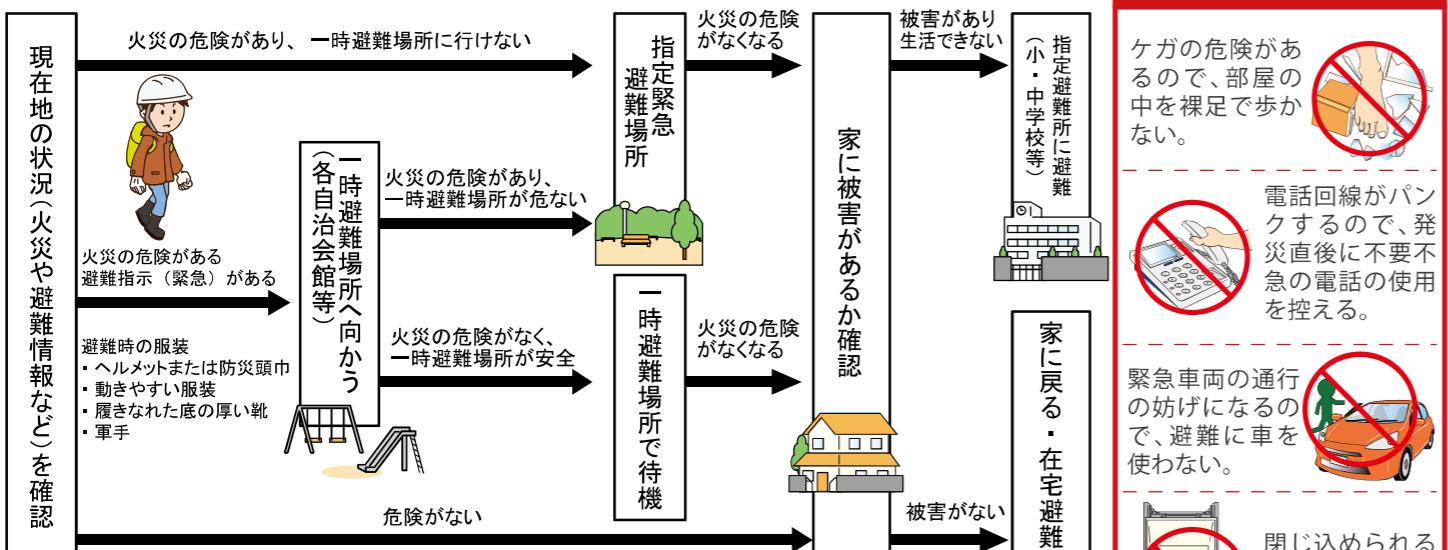


### ●かけ付近

- ①山にいる時はまず落石から身を守る
- ②かけや急傾斜地など危険な場所からは離れる



## 避難の流れ



※一時避難場所・・・自治会(自主防災会)が定める自治会避難所であり、自治会館などが指定されている。避難者数のとりまとめ、逃げ遅れの確認等を行う。地域の一時避難所について、平時から確認しておきましょう。

※指定緊急避難場所・・・発災時にその災害から一時的に身を守るために避難する施設。

※指定避難所・・・災害から一時的に身を守るだけでなく、災害により住居を失った方の収容施設を兼ねる施設。

# 震度と予想される被害の関係

それぞれの震度による被害の違いを事前に確認しておきましょう。

## 震度1

- ◆屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる



## 震度2

- ◆屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる



## 震度3

- ◆屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる



## 震度4

- ◆ほとんどの人が驚く
- ◆電灯などのつり下げ物は大きく揺れる
- ◆座りの悪い置物が、倒れることがある



## 震度6弱

- ◆立っていることが困難になる
- ◆固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある
- ◆壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある



## 震度5弱

- ◆大半の人が、恐怖を覚え、物につかりたいと感じる
- ◆棚にある食器類や本が落ちることがある
- ◆固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある



## 震度6強

- ◆はわないと動くことができない。飛ばされることもある
- ◆固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる
- ◆耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。



## 震度5強

- ◆物につかり難いと歩くことが難しい
- ◆棚にある食器類や本については落ちるものが多くなる
- ◆固定していない家具が倒れることがある



## 震度7

- ◆耐震性の低い木造建物は、倒壊する危険性が非常に高くなる
- ◆耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある
- ◆耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる

